

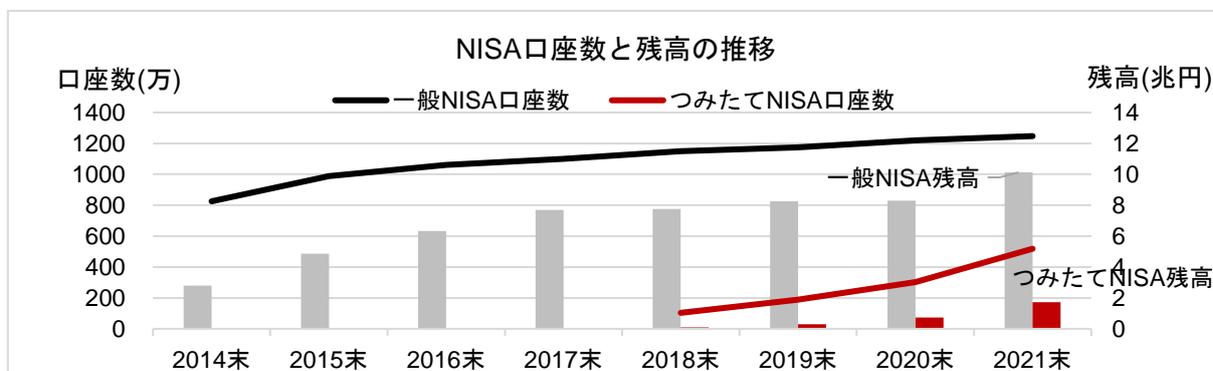
NISAの利用状況について

岸田政権が掲げる「資産所得倍増プラン」の柱として、NISA（少額投資非課税制度）の恒久化や投資枠の拡大などが検討されています。今回のCBCA NEWSでは、いま注目を集めるNISAの利用状況をまとめました。（データの出所：金融庁「NISA口座の利用状況調査」）

✚ 口座数と残高の推移

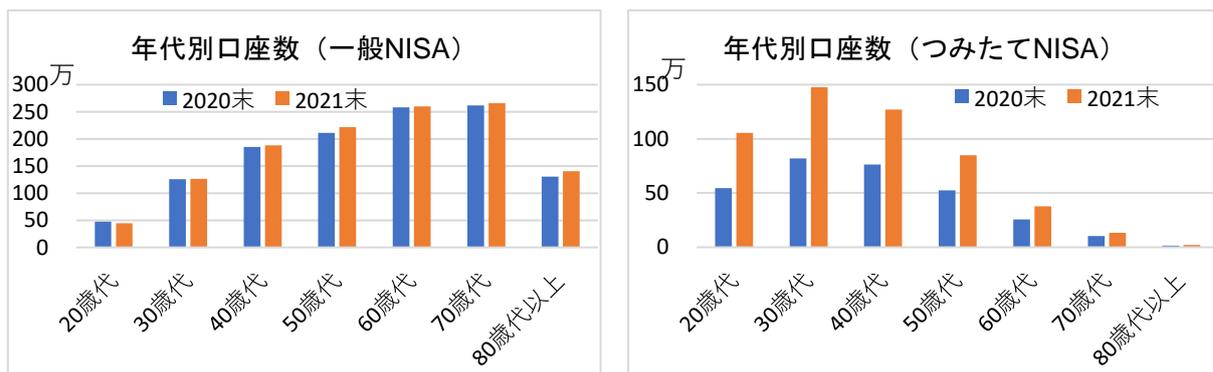
NISAには、「一般NISA」と「つみたてNISA」があります。一般NISAは、投資商品や方法に制限がなく、年間120万円まで購入でき、最大5年間非課税で保有できます。つみたてNISAは、制度上認められた投資信託等への積立投資に限定され、年間40万円まで購入でき、最大20年間非課税で保有できます。利用者は年単位で一般NISAかつみたてNISAのどちらかを選択することができます。

まずは、NISAの口座数と残高の推移を見てみましょう。



両NISAとも口座数および残高を増やしていますが、一般NISAの伸びが緩やかなのに対して、足下つみたてNISAの伸びが大きくなっています。

次に、各NISAの年代別口座数をみてみましょう。

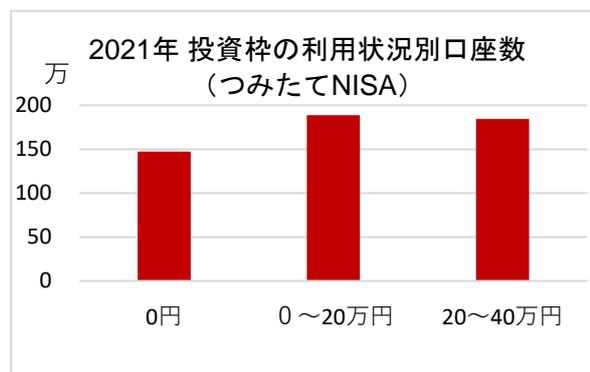
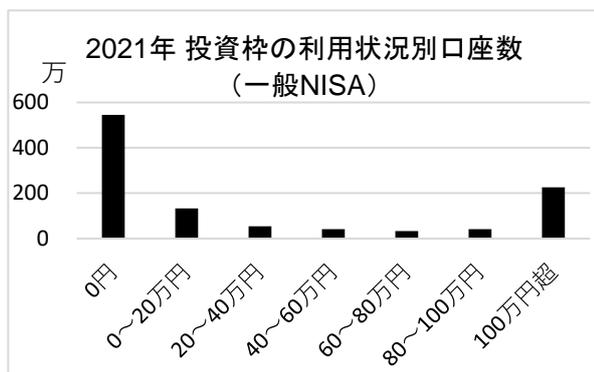


一般NISAは、60歳～70歳代といった比較的年配の方の口座が多いのが特徴です。一方のつみたてNISAは、20歳～40歳といった若い方の口座が多く、加えて若年層の口座数が大きく伸びています。

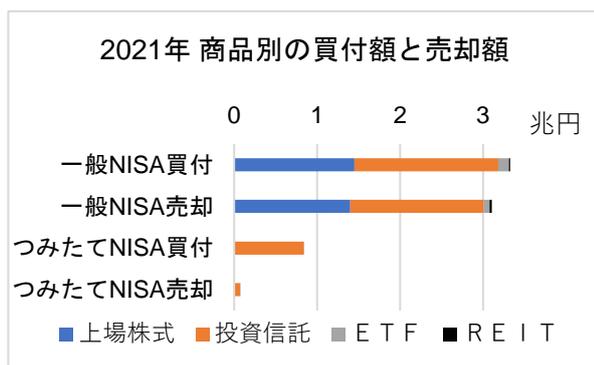
近年の株高に加え、「老後2千万円問題」が大きな話題となるなか、資産形成の必要性を感じ投資への関心を持った若年層が、初心者向け投資セミナーに参加したりネットで調べたりして、つみたてNISAの存在を知り、投資を始めるケースが多いようです。運用会社「野村アセットマネジメント」の調査では、20～30歳代における投資信託を保有するきっかけの1位がつみたてNISAだったそうです。こうした若年層の制度参加が、つみたてNISAの高い伸びにつながっています。

投資枠の利用状況と売買額

今度は、設定した口座がどれだけ有効に使われているかを確認してみましょう。



上のグラフは各 NISA における 2021 年の投資枠の利用状況別口座数です。一般 NISA の年投資枠は 120 万円ですが、上限近くの 100 万円超まで利用された口座が全体の 2 割強ある反面、全く投資が行われなかった口座が半数に上るなど、理由は分かりませんが、口座によって利用状況が極端に異なります。一方のつみたて NISA の年投資枠は 40 万円ですが、こちらは極端な分布とはなっていません。利用者の懐事情により利用状況が分かれていると考えられます。いずれにしろ、単純に投資枠が足りないと感じている方ばかりではなさそうです。



最後に、買付けた後のことをみてみましょう。左のグラフは、各 NISA における 2021 年の商品別の買付額と売却額です。(売却額には前年までに買付けた商品の売却分も含まれます。)みると、一般 NISA では、株式や投信の区別なく、年の買付に近い額の売却がなされています。利益確保を目的とする比較的短期の売買も多く行われていると考えられます。一方のつみたて NISA では、売却が少額に留まっています。主に長期の資産形成を目的とした投資が行われていると考えられます。

このように利用状況を見てみると、一般 NISA とつみたて NISA とでは、利用者の属性や目的などの点で、かなり異なる制度であることが浮き彫りになりました。これらを踏まえた制度改革がなされることを期待したいところです。利用状況の向上には、単純な投資枠の拡大だけでなく、使い勝手なども合わせて検討をすることが必要かもしれません。

なお、今回の検討の前に決定した一般 NISA の制度変更が 2024 年から実施される予定ですが、その制度変更そのものが見直される可能性があるとの話が出ています。今後の報道を注視願います。

一般社団法人全国経営診断士協会

〒112-0004

東京都文京区後楽 2-2-17 NBD 三義ビル

TEL : 03-3812-8211 FAX : 03-3812-8213

mail@cbca.jp

http://www.cbca.jp

お問い合わせ先